



共育だより

～1学期の地域学校協働活動のとりくみ～

—中校区コーディネーター—

R4. 7月

ありがとうございました

●放課後あそび隊

- ・授業でのボランティア学習（1年生）
- ・自発的なボランティア参加

5・6月、1年生は、総合的な学習の時間にあそび隊のボランティア学習を行いました。事前に児童とどんな遊びをするかを考え、準備する授業を経て当日を迎えました。限られた時間のなかで、能動的に活動する姿がたくさん見られました。

一中生に身につけてもらいたい力「自ら考え、自ら判断、決定し、自ら行動する力」を磨き、発揮する機会となりました。

一中生全学年が参加可能な部活動のない月曜日6月13日には、11名の生徒さんが任意のボランティアとして参加しました。7月4日（月）も同様に16名もの参加申し込みがありながら、コロナの感染拡大によって中止になり残念でした。子どもたちにとって異年齢での遊びは成長発達に欠かせないものです。2学期には再開できますように！



生徒の感想：みんなが元気にあそんでいて、こちらも楽しくなりました。子どもたちの笑顔をもっと増やしていけたらよいなと思いました。今度は母校に行ってみたい。（この生徒後日母校のボランティアに参加していました。）／女の子にまた来ねてと言われて嬉しかった。／小学生にも解りやすいルールを考えるのが難しかった。／もっと時間があるといいし、高学年とも遊べる機会があるいいと思った。／小学生で参加していたので、立場が変わって大変だったんだなと気づいた。

●赤ちゃん・お母さんと触れ合おう（2年生）

地域と共につくる地域学校協働プログラム（学習活動）として、この学習にはこんなねらいがあります！

- ①キャリア形成：少子化が進み、家庭や地域の中で乳幼児と接する機会の少ない中学生が実際に赤ちゃんに触れ合うことで、赤ちゃんのかわいさを実感し、乳幼児に関心を持つ。更に将来に向けて自分の子育てを楽しむにできたり、保育士等職業選びに役立てたりする。
- ②自尊感情・感謝の気持ちを深める。
- ③コミュニケーション力
- ④子育て支援のネットワークを知る。
- ⑤育児ストレス軽減、虐待防止につながる赤ちゃん理解：生理的な欲求や発達に関わる赤ちゃんの泣きに対する認識を肯定的なものに近づけ、育児ストレス、虐待の予防等につなげる。



生徒の感想：赤ちゃんのときから一人ひとり違うのだということがわかった。／子育ては家族全員で取り組んでいくことだと思った。また公共施設や制度についても考えてみたいと思った。／僕は赤ちゃんとも目があったり、だっこしたりして赤ちゃんの魅力がなんとなくわかりました。泣いているイメージしかなかったけど、赤ちゃんが笑ってすごく楽しかったです。

●第26回いわみっ子まつり 秋に延期
5月末から美術部・生活科学部さんが、とてもよい話し合いをすすめながら準備をしてきましたが、コロナのため10月に延期となりました。テーマは「楽しく過ごす子どもと大人で26（つむ）ごう明るい地域の輪」。夏休みを元気に過ごし、充実した2学期がおくれますように！